

狽獨

路子當る

大正十一年元日



大隈侯死す

(国民葬に決す)

大正十二年一月

十日

大隈

山縣公
「俺は国葬だろう
がその人氣の半分
も無さそうだ」

703

大正十一年
一月十七日

大隈侯
国民葬



ジョッフル元帥来る

大正十一年
一月二十日

鶴ヶ濱優勝
大正十一年一月廿三日

朝見藤 源氏山 若葉山 陸奥山 千葉崎 藤の川 鞍ヶ岳 三杉磯 白岩 清瀬川





第四十五議會

大正十一年一月廿六日



信越交通杜絶

積雪一丈三尺

大正十一年一月二十九日





槍の
名人 狂介
(通称山公)
死す

槍を取てハ

天下の一品
政を取てハ

天下の

サンピン

大正十一年

二月一日





711

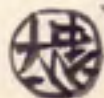
家庭舞踊

大正十一年三月



清浦奎吾枢府議長とある

大正十一年二月七日



冬の日

清浦の顔見てりけい

鼻のあたりぞ

日は暮れにけり

よみ人知まず

713

山東協定

大正十一年二月九日



(米)

(英)

(日)

(支)

英米
「馬鹿、ソナン字では
駄目だ、英文で書け」







上田有澤

米田

穰

岡松參太郎

土居通雄

穰

大倉孫兵衛

三須宗太郎

穰

前田利同

本多晋

穰

高田慎藏

林太郎

穰

林有造

三井高保

穰

蘭田宗慧

佃一彦

穰

竹内綱

大隈重信

穰

肝付兼行

石黒五十二

穰

三野村利七

三浦恵一

穰

徳川慶久

三浦恵一

穰

ベネチア才主

日下部東作

穰

シヤクトル

山縣有朋

穰

鳥居春洋

市川段四郎

穰

樺山資紀

橋家四藏

穰

神宮嵩寿

宇都宮太郎

穰

宮島信吉

大西猪之助

穰

神野金之助

諏訪蘇山

穰



反古紙製造

大正十一年三月一日

都下を抜ける雑誌の種類は今も
餘るが、その中で重要視されて
居るものが、ガト次の百六十二種
である、勿論専門の學術雑誌は
その外である。





(大河内子の忠勤)

大正十一年三月九日



大河内





720

平和博覧會難

大正十一年三月十六日



藤田留治二郎重橋爆死寸

721



大正十一年
三月十日
大根

念執いし悪

722

「サ、
内閣を明け
渡し召され

此方
内閣を明け
渡しは
あらぬぞ



大正
十一年五月二十日





第四十五議會終了
大正十一年三月二十六日



725

皇后陛下

福岡縣行幸

大正十年

三月廿七日



内閣居据る

大正十一年三月三十日

「豊
飽くまで
噛り付け！」



高橋
「仕方がない……
マアやつて見ま
しゃい」





未成年者

禁酒法実行難

大正十一年四月五日



獅見

奇麗な
国だ、
併し馬や鹿斗
り澤山居る
じゃあいか

大正十一年

四月十二日



730

祝融

ヤ、
御馳走か沢山
ある、一ツ嘗先
てやき、



帝國
ホテル
大災

大正十一年
四月十六日



731

東京地震

大正十一年四月廿六日

水手勸 二寸

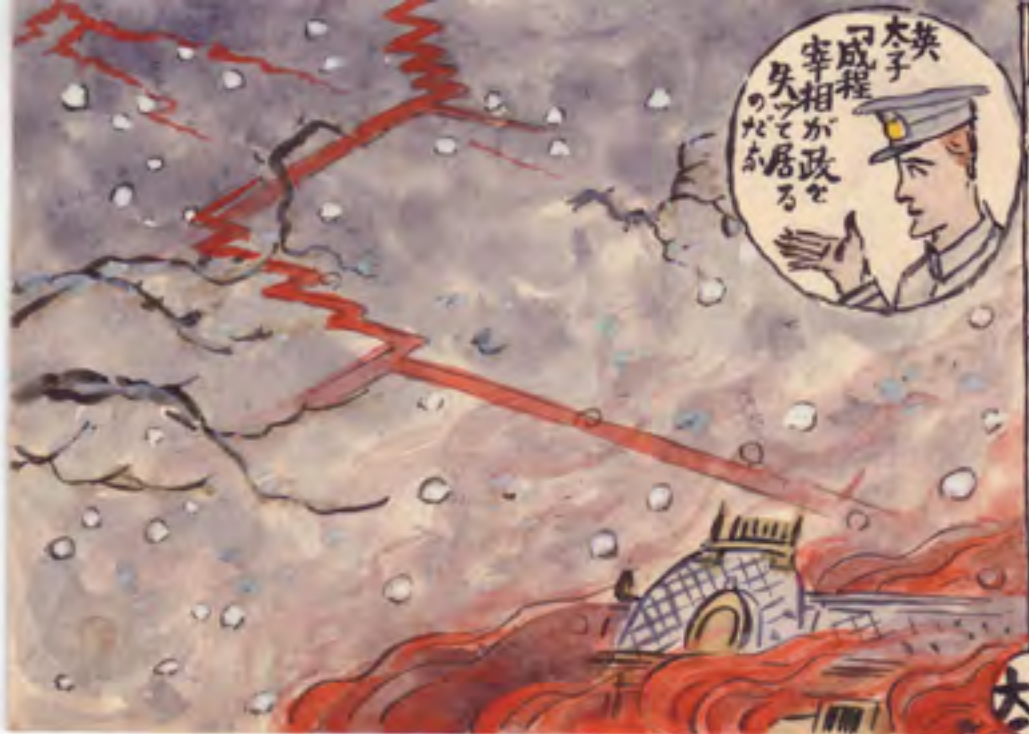


732

天變地妖

大正十二年四月廿六日

四月十五日 迅雷巨雷
全十六日 帝國ホテル大火
全廿五日 烈風
全廿六日 激震

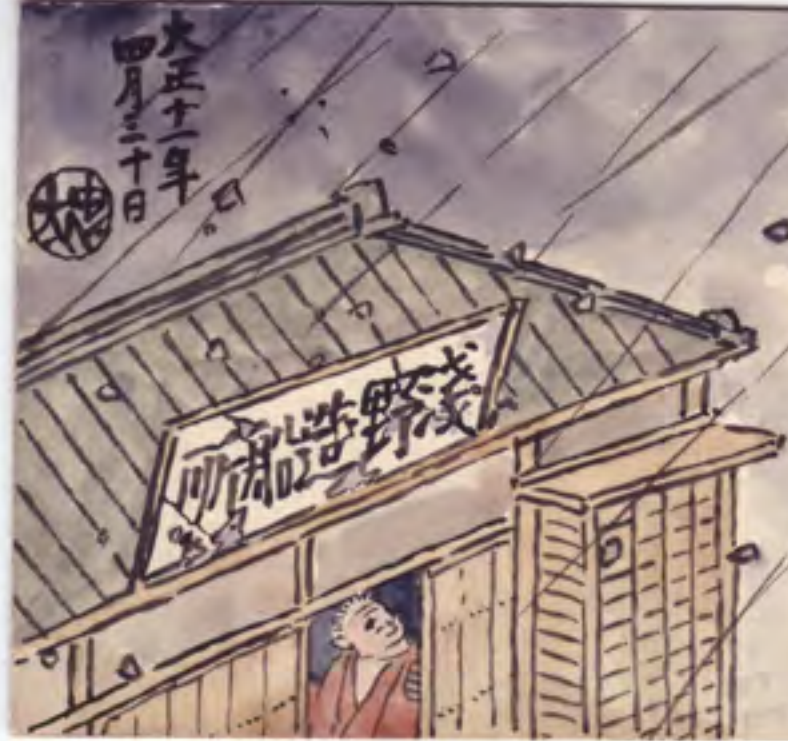


733

浅野造船所閉鎖
職工千六百名解雇

浅野
ひどい不景気風だ
戸を締めてはあつまい

大正十一年
四月三十日



内閣改造説

大正十一年五月一日

高橋
「また修繕
がきくだろう」

「モ一駄目だ
立ち退いた
方がい」



735

支那内乱



大正十一年
五月二日





内閣改造中止

臭態
臭態高橋
「コリヤたまらぬ
汲み替えは
中止じや

大正十一年五月八日

Copyright 日本建築学会

738

婦人政談演說

大正十一年五月十日

即是牝雞晨



739

西瓜大の雹曲阜の
文廟を破壊す

大正十一年五月十五日



740

皇大神宮臨時御遷宮

大正十二年九月十七



世界六大都市

大正十一年五月廿一日



都市名

人口

面積(平方哩)

人口密度(一平方哩に付)

大倫敦	七、三二一、九七八	六九三	一〇、六〇〇
倫敦府	四、五二一、六八五	一一七	三八、六〇〇
倫敦中心部	一、五〇〇、〇〇〇	九八	一五、三〇〇
大巴里	三、八八八、〇〇〇	一八一	二一、五〇〇
巴里	二、八八八、一一〇	三一	九三、二〇〇
大柏林	三、二一〇、〇〇〇	一一九	二七、〇〇〇
柏林	二、〇七一、二五七	二五	八二、九〇〇
紐育市	五、八〇六、五三二	三一五	一八、四〇〇
紐約	二、五四四、二四九	一九九	一二、八〇〇
東京市及近郊	三、一一〇、六九三	六八	四五、八〇〇
東京市	二、三七七、八八四	三〇	七九、三〇〇

都 市	人 口	面 積 (平方哩)	都市鐵道軌道延長 (哩)		人口百圓に對する 軌道延長 (哩)		面積一平方哩に對する 軌道延長 (哩)	
			路 面	高 速	路	高 速	路 面	高 速
ロンドン	4,521,685	117	289	253	64	56	2.5	2.2
巴 里	2,888,110	31	330	113	121	39	11.8	3.7
伯 林	2,071,237	25	372	82	180	40	14.9	3.3
紐 育	5,806,532	315	1,222	409	211	71	3.9	1.3
市 俄 古	2,544,249	129	947	182	372	64	4.8	0.8
費 府	1,549,008	129	564	90	364	58	4.4	0.9
平 均					219	55	7.0	2.0
東 京	2,323,310	30	182	25	78	10	6.0	0.8

西の方

大錦

●○○○今○○○○○○○●
 太若千清河陸三矢鞍紅
 刀葉葉葉葉葉葉葉葉
 光山奇川山山磯山岳川

山木柄

○○ ○多○○○○●
 若清沐紅千太鞍陸矢阿
 葉瀨葉葉葉葉葉葉葉
 山川川奇光岳山山川



東の方

太刀光

○○○○○○●分○○●
 大鶴大光常柄司福綾大
 ケ門風花山竜柳鬼里
 錦浜岩

阿久津川

○○●○○●○○○○○
 東阿鶴柏大福大大常柄
 雲蘇ケ山錦柳里岩山
 岳浜山

743

夏場所成績

大正十一年五月二十二日



744

自殺者處分法案

大正十一年五月二十四日



揭示

尔今自殺者は其情實の
如何を問はず總て之を阿鼻
地獄に回送し永劫の苛責を
受けしむるものとす
但情死者は焦熱地獄に移
送するものとあらんべし

大正十一年五月 地獄廳



745

富豪脱税

大正十二年五月廿九日



署員
マダ五六百
万円の御
所得が
おあり
の筈
ですが……



富豪
「馬鹿を云へ！」



署員
マダ所得が
あるならう
隠匿すると嚴罰
だぞ



窮民

「恐ま入り
ました、
実は外子
雑収入が
年々二三十円
あります」

當春の牧獲

大正十一年五月三十日



電棒を日本の物價

大正十一年五月三十日



物價表(錢)

品名	英	米	日
牛肉一斤	七三〇	七五〇	一九二〇
牛乳一合	五〇	四五	一〇〇
パン一斤	一〇五	一九〇	一八〇
砂糖一斤	二三〇	一四〇	二二〇
馬鈴薯一斤	五〇	七〇	一〇〇
玉葱一斤	—	七〇	三〇〇

●一人當り一年の所得(円)

英	米	日	獨
八九〇	一四〇〇	一六四	二〇六

●大戰以前と現今の物價騰貴率(パーセント)

南阿	濠州	米國	加奈陀	新シラド	アスエラ	孟買	英國	瑞西	丁林	海牙
二五	四三	四七	四九	五〇	五二	七六	七九	八七	九七	一〇八
那威	日本	巴里	ベルギー	ローマ	フィンランド	スウェーデン	獨逸	オーストリア	波蘭	
一六八	二〇〇	二一九	二三八	三六九	一八六	一三四五	二二一九	二〇六二	七五〇七三	

748

公會堂問題

床次
公會堂
建立は
不承知で
滞坐る

後藤
何を
小癪か

大正十一年
五月三十日



徐退位 黎出廬

大正十二年六月五日

黎元洪

「マタ出るかふ
儲かればよいが

徐世昌

「デモ少しは
儲かつた

内閣総辞職後継者物色

斎藤

田

元老
誰か
當る
かふ

床次

山本達

後藤

山本權

加藤高

加藤友

大正十一年
六月七日

大隈

清浦



752

東京市議統選舉

(理想候補者慘敗)

小石川の役

大正十一年六月六日



得票候補者

五二七鳩山一郎

二九九大山脚豆吉

二二六松井錦橘

二二〇寺野新一

一七三菅沼廣助

中間内閣成る

政友

一寸代り子出て
呉き、お前は
男振りが好い
から屹度受ける
よ

加藤

任方があい、
一寸出て見よう

大正十一年六月十五日

海軍	陸軍	鐵道	農商	逓信	文部	司法	大藏	外務	内務	総理
加藤友三郎	山梨半造	大木遠吉	高井清太郎	前田利定	田中梁吉	岡野敬次郎	市来乙彦	内田康哉	水野錬太郎	加藤友三郎



754

憲政會地圖太と踊む

大正十二年六月十二日



憲政會



「気の毒だが
あの蛇角ぢや
トテモ取れや
しあい



755

出羽の海死す
大正十一年有十九日



「案外
脆い」



亡命の
名人孫文
上海に奔る

大正十一年
六月廿日



孫文
俺は辛ッロ
でも山原薪や積まぬ、
積で行くのは金と女じゃ
人間萬事塞翁の馬か、
又上海で一と儲けだ



757

殺人流行

大正十一年六月廿四日



悪漢は
凶器で

庸医否
名医は
是で

美人は
眼で

法官は
權で



758

雍仁親王御成年
秩父宮號宜賜

大正十年
六月廿五日



759

シベリア撤兵聲明

大正十一年六月二日



チタ政府領土

760

工左レスト峯登攀中止

(二万七千三百尺まで)

大正十一年六月廿日



骨肉相食む
(露民の惨状)



大正十一年六月廿九日



一日の收入

大正十一年六月二十九日



職業

一日の收入

三井の理事

八五四、〇〇円

三菱の重役

住友の理事

六五四、〇〇

藤田の理事

四八〇、〇〇

総理大臣

八一、九〇

大臣

四一、五二

満鉄総裁

七〇、九三

東京市長

六八、四九

大使、満洲総督

五四、七九

公使、樺太長官、大將、

四〇、〇〇

西院議長、日銀総裁

敬言視総監

三八、三二

次官

二一、五二

翰林検査院長、師團長

二二、五八

大審院長、検事総長

二八、二五

763

危い哉 大正十一年六月廿日

(あせは屋敷楼である！)



頭道溝領事館焼かる(晉)
大正十一年六月三十日



765

一時間千円

三浦環の肉聲

大正十一年七月二日



766

大正十一年
七月一日

「サボ官吏ソ
グツク言ッ
て居やがや



土曜休暇
土曜半休

全廃



甲吏

「実みひどい

乙吏

「全くやり

きききい

丙吏

「同盟怠業でも

してやろうか



767

孫文
居直る
大正十一年
七月三日



陳早出て行く

孫
百万円
出せ





話の種

日本の鉄道総長は
八千七百二十哩で

其内、國有鐵道は六千六百五十四哩を占め、之を面積百平方哩當りにすると五哩九分、人口一万に對して一哩六分の數に過ぎない。▲東北方面では、面積百平方哩に對し五哩二分、人口一万人に對し二哩一分の數となる、之は東北地方が面積の広い割に人口の稀薄である結果だ。▲日本全國の人口は總計五千五百九十六万人だが、今各県の乘車人員を調べて見ると、三萬五千七百八十八人になる、然るに日本一人當り六哩四分だけ乘車に乗つたこととなる。▲然るに東北地方のみに對して見ると、人口大凡七百十七万人に對し、乘車人員は二千九百十万人で、一人當り四哩一分となり、他地方の約三分の二位しか乘車せぬこととなる。▲又貨物の發達も全國一人平均一哩七分だが、他地方内は九分四厘に止まり、他地方に比べると著しく少い。▲仙臺市の人口一人に對する乘車人員は二十人の數だが、山形は十九人、長野は十八人、新潟は十四人、米沢は十二人で、之を奈良の七十一人、明石の五十八人、姫路の五十人等に比べると、東北地方の鐵道使用率の著しく少い

平和博賑興策

大正十一年七月八日



770

行政整理(天引二割五分)

大正十一年七月十日



旦那

「大分肥り過ぎた
二割五分丈り
切り縮めて呉え



植木屋

「ソレに
縮めると
枯れますぞ」



771

賣国奴
賣国奴

帰朝せる早川雪洲
大正十二年七月十日



「大人氣あい
誉めてやッて
下さい」

772

登山水泳

大正十一年七月廿二日



山の神
「矢ッ張り
不景氣だぞ
お前の
方は
ドーダ

海の神
「矢ッ張り
不景氣だぞ



773

富士登山



大正十二年七月廿

上り客

高い山だ

一体どの位高いのだ

降り客

アサヒ

卵が一ツ

二十銭だ



支那の人口

大正十一年七月二十五日



年代	皇紀	西暦	人口	出典
漢平帝	熹仁 三〇一五	〇- 5	五九、五九四、九七八	甲子夜話
後漢ヨリ隋	肅仁 推古二五	25- 617	四六、〇一九、九五六	町金囊衣排
晋太康三年	康神 十二	281	一六、一六〇、〇〇〇	商堂書
隋大業三年	推古 十四	606	四六、〇一〇、〇〇〇	全
唐天寶四年	聖武 五	755	五二、九一〇、〇〇〇	全
宋崇寧元年	崇寧 五	1105	四三、八二〇、〇〇〇	全
金泰和七年	土衡 永元元	1207	四五、八一〇、〇〇〇	全
明洪武廿六年	後小松 明德四	1393	六〇、五四五、八一二	明史
金永樂元年	後小松 應永十	1403	六六、六〇〇、〇〇〇	義測編
金弘治四年	後土内 延徳三	1491	五三、二八一、一五八	明史
金万曆六年	正親町 天正六	1578	六〇、六九二、八五六	全
清乾隆七年	桃園 宝曆三	1753	三三八、八四〇、〇〇〇	義測編
現代			四〇〇、〇〇〇、〇〇〇 三〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一般の観測 伊東忠太観測

公園の坪数

公園4坪²付
人口人口一人²付
公園1坪数

775

東京

357068

6086

0.16

倫敦

373

2.68

巴里

453

2.21

紐育

563

1.77

公園と人口

大正十二年七月廿六日



776

海水浴？快醉慾

大正十一年七月二十七日



777

珍聞怨

大正十二年七月二十八日



環

私の良人と云ふ

名丈けでも

お前

さんの

名誉

じやあいか



三浦医
士

「そりや

聞あへま

せぬ環さん、

お言詰り無理とい

思ひねど

778

軍縮

大正十一年七月二十九日



軍神の手を
半分を切り減ら
して貰ひ度い



本尊
軍神の像

779

神聖衰弱流行
大正十二年七月三十日



レーニン

ウエルソン

カーゾン

フースクリフ

ナゲシヤチル



780

馬^{マルク}克暴落(二厘五毛)
大正十二年七月三十一日



「ウシ」
下げてやま

「大子やり
たま



1920

1921

1922

3 銭

2 銭

1 銭

781

平和博覧會

大正十二年七月廿一日



亭主
三百萬円
からの
損だ

女房
タカラ
沛止光
みあられ
よかつた
のに





783

暑い暑

大正十一年八月七日

か弱いからだに、三重五重
の装い。重い負荷、
険しい行路。烈日、金石を
溶かす、汗人や
肉と血をこわや。



明治十九年以來の高温
気温華氏九十六度

784

溺死大流行

大正五年八月十日



小野田道子



785

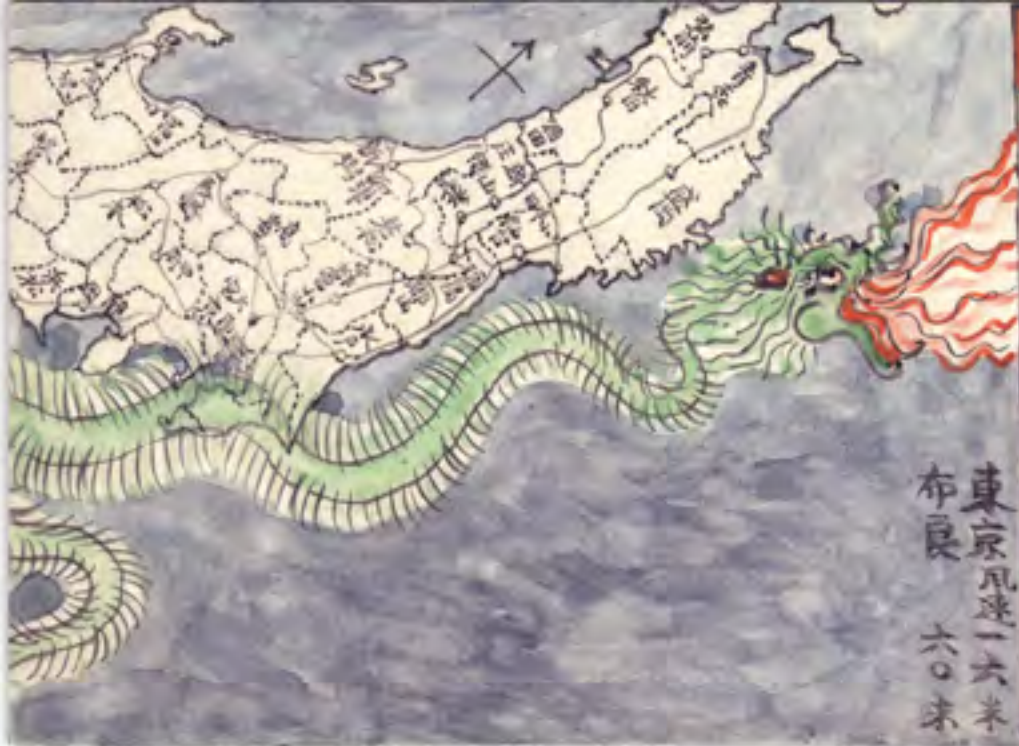
颱風

オホーツク海へ

大正十一年八月二十四日



東京風速一六米
布良 六〇米



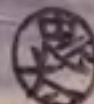


787

軍艦新高沈没す

大正十二年八月三十日

八月二十六日、カミヤカ
の西海岸にて



大正十一年九月一日

等級

一年の所得

戸数
對スル率

戸数

貧民

下	中	上
六百円以下	六百円以上	千円以上
九二、七	五、七	一、〇
四六三五〇〇	二八五〇〇	五〇〇〇

中民

下	上
二千円以上	三千円以上
〇、三	〇、二
一五〇〇	一〇〇〇

富民

下	上
五千円以上	二萬円以上
〇、一	極少
五〇〇	？

一家五口の最少生活費

食費 六四七、三割五

被服費 二二〇、一割

住居費 三八五、一割七

その他 八二四、三割八

計 二〇七六、十割

表本原長氏の観測



大正十一年九月一日 大變はこれ

789



790

國民黨解黨 大正十一年九月一日



791

デブ公事

ロスキ、アバツクル来る

(休量三十六貫)

大正十年九月三日





792

アンパヴロワ

大正十一年九月六日



793

長春會議

大正十一年九月七日

松平

ヨツフェ

ヤンレン



① トマス・エディソン



③ チャールズ・ヒュース



② ウッドロー・ウィルソン



④ チャールズ・エリオット



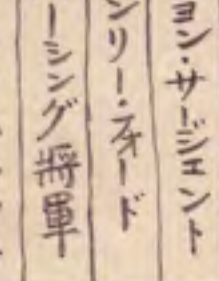
⑤ ハーバート・フーヴァー



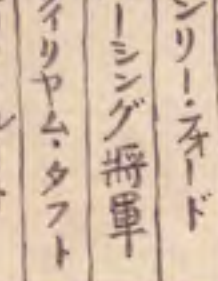
⑥ ジョン・ロックフェラー



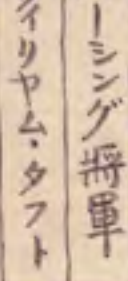
⑦ ジョン・サージェント



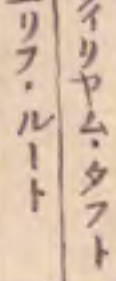
⑧ ヘンリー・フォード



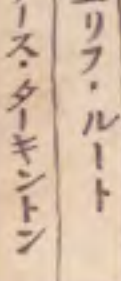
⑨ パーシング 将軍



⑩ ウィリヤム・タフト



⑪ エリフ・ルート



⑫ ブース・ターキントン



壬戌秋古曆七月
既望紅葉館雅集
柏梁體聯句

大正又逢壬戌秋。水。壩。來。年。十。
四。國。府。基。少。夏。前。原。戰。國。南。白。
露。天。風。萬。樹。杉。溪。六。面。詩。賢。此。夕。有。何。
詩。若。獨。休。八。百。年。撫。舊。事。日。下。忙。牛。
農。區。亦。應。漢。川。村。縣。語。詩。句。誰。是。後。
高。柳。秋。滿。江。山。風。露。寒。元。田。池。底。綠。
九。峰。秋。滿。江。山。風。露。寒。元。田。池。底。綠。
座。酒。盈。臨。小。久。保。清。光。照。露。影。紅。球。
大。島。秋。風。拍。月。不知。愛。袖。袖。袖。袖。袖。
蘇。谷。秋。風。拍。月。不知。愛。袖。袖。袖。袖。袖。
傳。江。上。酒。仙。坡。後。拍。月。月。月。月。月。月。
雲。道。立。集。立。摩。丹。丘。中。田。天。地。自。爲。
一。鮮。坡。酒。風。仙。坡。後。拍。月。月。月。月。月。
赤。松。文。武。高。松。高。松。高。松。高。松。高。松。
前。松。不。登。狂。風。亂。石。余。石。原。杉。田。我。
興。然。有。有。有。有。有。有。有。有。有。有。有。有。

大。正。又。逢。壬。戌。秋。水。壩。來。年。十。
四。國。府。基。少。夏。前。原。戰。國。南。白。
露。天。風。萬。樹。杉。溪。六。面。詩。賢。此。夕。有。何。
詩。若。獨。休。八。百。年。撫。舊。事。日。下。忙。牛。
農。區。亦。應。漢。川。村。縣。語。詩。句。誰。是。後。
高。柳。秋。滿。江。山。風。露。寒。元。田。池。底。綠。
九。峰。秋。滿。江。山。風。露。寒。元。田。池。底。綠。
座。酒。盈。臨。小。久。保。清。光。照。露。影。紅。球。
大。島。秋。風。拍。月。不知。愛。袖。袖。袖。袖。袖。
蘇。谷。秋。風。拍。月。不知。愛。袖。袖。袖。袖。袖。
傳。江。上。酒。仙。坡。後。拍。月。月。月。月。月。
雲。道。立。集。立。摩。丹。丘。中。田。天。地。自。爲。
一。鮮。坡。酒。風。仙。坡。後。拍。月。月。月。月。月。
赤。松。文。武。高。松。高。松。高。松。高。松。高。松。
前。松。不。登。狂。風。亂。石。余。石。原。杉。田。我。
興。然。有。有。有。有。有。有。有。有。有。有。有。有。

大正十一年九月八日



796

美術季節来る
大正十二年九月十日



797

開闢以来の豊年
大正十二年九月十二日



「六千五百万石は
確かであらう」



希軍
敗退

(土)

大正十年
九月十二日

(希)



799

内大臣交迭
大正十一年九月十日



平田
ヤク

松方
ヤク



800

台灣大地震宮古島大暴風

死傷無算

大正十一年九月十八日

